

第48回 役員会 議事要録

日 時：平成25年9月27日(金)14:00～15:10

場 所：北方キャンパス本館 E-703 会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、松尾理事、梶原理事、
井村理事、中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長

報告事項

- 1 教員の再任について
- 2 プロパー職員の採用試験の結果について
- 3 平成25年度入試広報イベントにおけるアンケート結果について
- 4 外務省「KAKEHASHI」プロジェクト採択について
- 5 海外インターンシップの実施結果について
- 6 「北九州市立大学ブランド酒」の開発について
- 7 環境技術研究所「ビジョン2013」について

報告1 教員の再任について

<質疑応答>

- 教員は、任期付きと任期無しの場合があるのか。
○職によって異なる。社会システム研究科、都市政策研究所、基盤教育センターの異文化言語教員などが任期付きである。任期制そのものについては、大学の教員の任期に関する法律で「先端的・学際的、又は総合的な教育研究等の多様な人材確保が求められるものについては、その組織の教員に任期を付けることができる」とあるので、それを踏まえて本学の規定の中で任期がある教員を配置している。
- 給与や待遇は異なるのか。
○それは変わらない。ただ、任期があるという事で雇用が不安定なところはある。しかし改正労働契約法が今年度施行され5年を超える有期雇用ができなくなるので、ひびきのキャンパスの教員については一定の基準を満たした教員は無期契約に切り替えていくこととした。
- 北方キャンパスでは任期付きは影響ないのか。
○労働改正契約法の影響は5年後から発生するため、現在委員会で検討中である。

報告2 プロパー職員の採用試験の結果について

<質疑応答>

- バランスよく採用したかったが、女性のほうが優秀であった。
- 今回の倍率から見ても、公的な部門への応募意欲は強い。

報告3 平成25年度入試広報イベントにおけるアンケート結果について

<質疑応答>

- これらのイベントの案内はどの範囲で出しているのか。
○九州・広島・山口県の全高校、市内の主要な予備校と、中・四国・沖縄エリアで過去5年間の内に本学に出願実績があった高校へ出している。
- 競合大学はどのようにして決めたのか。

- 高校の進路指導担当教員にアンケートを実施した。
- この結果は何に使うのか。
- どの大学と競合しているのかを把握することによって、本学のPRポイントをより明確にする資料となると思う。

報告4 外務省「KAKEHASHI」プロジェクト採択について

<質疑応答>

- 選考は本学で行うのか。
- TOIECスコア、グローバルプログラムの出席状況等で選考している。TOIECスコアは最低470点以上である。

報告5 海外インターンシップの実施結果について

<質疑応答>

- インターンシップは海外の日本の法人に行くのか。
- 韓国等一部の国では現地企業や第3セクターに行くところもある。

報告6 「北九州市立大学ブランド酒」の開発について

<質疑応答>

- 既に販売しているのか。
- 酒税等の免許は手続きしているので販売は可能だが、試作品の販売は検討していない。年明けに醸造が終わるものについては、販売方法を検討している所である。
- 試作のコストはどこから捻出しているのか。
- 研究費で賄っている。なお、特許取得にあたっては学生と共同で出願している。

報告7 環境技術研究所「ビジョン2013」について

<質疑応答>

- 教員の研究分野と企業が求める研究分野のマッチングが必要ではないか。
- 他大学では、企業経験のある職員がコーディネーターとなって企業訪問している。
- 他では学術研究都市で年1回開催される産学連携フェアでマッチングを行っている。
- 多くの大学では、卒業生が就職した企業と大学をマッチングする役割を担っている
- 伝統がある大学では、母校出身者が企業の管理職になっており、研究費を大学に提供することができる。しかし、本学は1期生がまだ若いため、他の仕掛けが必要である。
- 他大学はコーディネーターを持っている。FAISが3大学のコーディネーターを行うとのことだったので、本学でコーディネーターを準備していなかった。現在FAISと調整中である。しかし、FAISの予算が国と市の両方から減っていて、本来の機能が果たせていないのが現状である。
- 大企業に限らず、中堅企業へのパイプを持つには数多くの営業が必要である。